



# 2022 10月園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## 天高く馬肥ゆる秋

9月は台風が頻繁に発生し、そのたびに進路を注視する日々でした。先日の台風14号が通り過ぎた翌日、もも組の男の子が空を見上げて、「園長先生、見て！大きな雲がバラバラになっている！」と教えてくれました。見ると、空一面にうろこ雲。本当にバラバラに広がっていました。



さて、今年の運動会も、今のところ台風の影響はなさそうです。昨年度同様暑くなりそうです。コロナ対策同様、暑さ対策も十分にしてお越してください。今年は、一家庭の人数を4名とし、昨年度の大人子ども問わず3名までと比べて増やしました。全家庭一区画が2m四方ですので、少し窮屈な思いをさせますが、その分、今年はカメラマンエリアを3か所設けましたので、ご自身のお子様が出場される時には、ぜひご利用ください。カメラマンエリアの約束については、9月5日に配付したお手紙に示したとおりです。

- 1 入場行進、開会式、準備体操、閉会式の時は、カメラマンエリアを開放しませんので、立ち入らないでご自分の席でご観覧ください。
- 2 カメラマンエリアの利用は、ご自身のお子様が出場される種目の時のみ、かつ一家庭1名のみと制限させていただきます。
- 3 3歳以上児の色別対抗リレーの時に限り、混雑を避けるため、本部席側のカメラマンエリアの利用はさくら組の保護者のみに限定させていただきます。農園側のカメラマンエリアは、クラスを問いません。譲り合って自由にご利用ください。

今年の運動会では、新たに変更したものが他にもあります。

まず全力走。着順判定を廃止しました。ゴールまで全力で走った全員の子を讃えるためです。組を編成して走る以上、1等、2等を意識するのは当然ですが、がんばって走った子どもたちに大人が優劣をつけるのはよくないと考えたからです。ただし、ゴールテープは張ります。ゴールを明確にするためですが、それと同時に、子どもたちにも一番でゴールするという目標はもたせたいからです。私も子どもの頃はそうでしたが、運動会の短距離走でヒーローになりたい子はいつの時代もあります。でも、走ることを苦手と感じている子にも配慮しなければいけません。

次の変更点は、3歳以上児の障害物競走です。これも着順を廃止しました。本園の障害物競走は、これまで主に器械体操を取り入れていました。今年度も跳び箱、平均台、マット、鉄棒が登場します。しかし、これらの器械体操を競走種目の中に加えると、子どもたちは速さにこだわり過ぎて大変危険です。例えば跳び箱。両足で踏み切って、手のひらを広げ両腕で体を支え、跳び越した後は両足揃えて着地しフィニッシュ、といった一連の動きが乱れ、バランスを崩して転倒する子が出てしまいます。個人競技に器械体操を取り入れる場合は、これまで身に付けてきた技能を発表する場として、速さを競う種目から美しさや力強さを見せる種目に変えることにしました。

今年は3年ぶりに来賓をお呼びします。といっても今年は評価委員の2名の方のみに限定しています。今年度の評価委員をお願いしている方は、元第二幼稚園長の堀野留美子様と彦島中学校区家庭教育支援チームのリーダー佐々木猛様（向井町在住）のお二人です。園児や職員ががんばっている様子を実際に観ていただきます。内容は年によって変わるとは思いますが、新型コロナの対策は継続しつつ、徐々に規模を回復していくことができることを願っています。（園長 寺本 明生）